



(尾花沢「横内遺跡」出土・土器)

文化財保護の方向について

佐々木 洋 治

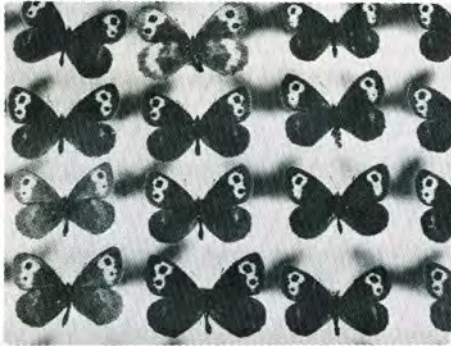
20世紀後半の日本における経済成長はめざましく、ブルドーザー・パワーシャベル・ダンプカー等の大型機械による土地造成の影響は、自然景観を変え、都市形態をも時として変えつつある。その過程において幾多の貴重な埋蔵文化財、特に考古資料の破壊は多く、科学的な調査のデータをも得ることなく闇から闇へほうむりさられた遺物・遺跡は数限りないであろう。考えただけでも残念である。

このような経済開発と遺跡保存の接点を現代社会の中に調和させ、成立させることは、限られた国土の日本にあっては無理な注文であろうか。近時全国的な運動として、文化財保護の声がたかまっており、各地における遺跡は国・県指定や、緊急調査による記録保

存としてその成果をおさめている。

英国の考古学者ウーリ教授は云う「発掘は破壊である」……と。日に日に増す緊急発掘に対処する考古学研究者が主体性を失ない機械的な作業による記録保存のみの関りであれば、それはただ単なる錦の御旗の下にあるブルドーザーも同じことであろう。数はあっても限度のある文化財の保護・保存はひとり考古学研究者の自己満足ではとうてい破壊から守り通せるものではない。それには国の抜本的な文化財行政施策と強力な財政措置の裏付のもとに都道府県・市町村の行政機関が一体となり、考古学研究者は積極的に知識を開放し、国民一人一人の協力を得てこそ貴重な遺跡・遺物の保護・保存は可能となるであろう。(考古担当)

— 展 示 室 か ら —



動物 山形県下のベニヒカゲ

ベニヒカゲ類はジャノメチョウ科に属して、旧北区の特にヨーロッパ、シベリヤ亜区に栄えていて、一部新北区及び遠くはなれてニュージーランドにも2種類産している。旧北区の代表的な一群の蝶として名高く、総計約70種を数える大属である。

日本には2種分布し高山蝶として呼ばれている。山形県に分布するのはベニヒカゲで、飯豊山、朝日岳、月山、鳥海山のおおよそ1,400 m以上に生息するが、奥羽山脈系には分布しない。これらの各山の産地は不連続で、それぞれ大きさや色斑に特徴があり、地方型(亜種)をかたちづくっている。

展示室にはテーマ展示として取り上げ、上記4つの各山の生息場所を示す分布地図とそれぞれの亜種を展示して解説している。(奥山)



地学 化石(二枚貝・まき貝)の新種

発見される 飯豊町宇津峠層から昭和43年、白川中流の飯豊町西高峯北西方と宇津沢東方から神保彦、本田康夫、村川信

植物 山形県の天然記念物

特別天然記念物 — 羽黒山のスギ並木 —

東田川郡羽黒町大字手向字羽黒山

羽黒山のスギ並木は、江戸時代の初期羽黒山五十代執行別当、天有法印(1606~1674)の業績によるもので、山麓の随神門から山頂にいたる約1.7 kmの参道の両側に、樹令300年以上をえた巨樹老木であるが、いまなお、樹勢がきわめて旺盛である。

このスギは、いずれも幹が直立しており、最大のもので、胸高直径1.3 mを越え、1 m以上のものが140株、総数585株ある。しかし、指定後数回にわたる台風によって14株が失われており、万全の保護策が望まれている。羽黒山には、この並木の他に、県指定の天然記念物「爺スギ」もある。(吉野)



夫の3氏により貝化石が採集された。その中で、神保彦博士の研究の結果、3新種と1新亜種が発見され、東北大学理科報告特別記念号に報告された。

その中で、2新種は本田、村川の各氏に敬意を表して命名された。

これらの化石は、何れも絶滅種である。

- 飯豊町宇津沢東方
- 1. ムラカワツキガイ *Lucinoma murakami* Zinbo
- 飯豊町西高峯北西方
- 2. ウゼンハマグリ *Meretrix uzunensis* Zinbo
- 3. ヤマガタタマガイ
Tectonatica janthostomoides yamatagatana Zinbo
- 4. ホンダツノオリイレ
Trophonopsis hondai Zinbo

(菅井)

考古

歴史時代

— 城輪柵跡出土の柱根 —

城輪柵跡は庄内平野の北部、酒田市大字城輪・同豊田・同刈穂に所在する。

昭和6年に発見され、翌年の4月25日に国の史跡「城輪柵」として指定された。その後、昭和39年予備調査、同41年第1次調査をかわきりに本確的な発掘調査が数次にわたりおこなわれ、目下その全貌を明確にすべく、調査がなされている。

遺跡内より多量の土師器・須恵器をはじめ複弁蓮華文・鏡瓦片とともに、柵・門・建物と推定される角材・柱根・角柱なども多数発見されている。その遺構は正殿・東脇殿・西脇殿を中心に、四方に門を配した1辺720米前後の壮大な城柵又は官衙跡と推考され、いわゆる「出羽柵」「出羽国府」との二説があるが最近の調査資料により後者説が有力である。(佐々木)



民俗

— ろうそくとあんどん —

電灯以前の照明具はランプ・ちょうちん・あんどん・松ヤニろうそく・松の根・たいまつなどがあげられる。ろうそくの使用できない庶民は松の根を細く切り、石皿の上にあげてあかりをとった。その後松ヤニを固めて笹の葉で包み燭台に立てて使用した。

ろうそくは漆やハゼの実から絞った油と紙ヨリや藁草の芯を細木に巻いてろう芯として作り、カンナをかけて仕上げ包丁で切って作るもので百匁ろうそく3百匁ろうそくなどを生産し、「あかし屋」の前はこれを求める人々が毎朝行列をつくるほどであった。

ろうそくを用いる行灯は比較的新しいが、以前は油を用いた。宿屋などでは置あんどん・掛あんどん・手燭などが多く、最近まで、農家では六角あんどん・さげあんどんを用いた。(板垣)

県内博物館めぐり

— 出羽三山歴史博物館 —

山形県について何は知らなくとも、出羽三山の名は誰もが知っている。羽黒山は今からおよそ1,380年前蜂子皇子によって開山され、平安から鎌倉の頃には衆徒8千8坊を数え羽黒修験道として天下に勢威を誇ったという。

歴史博物館は、これまでの宝物殿を改め昭和45年に出羽三山歴史博物館として山頂に新築された。重要文化財を含む銅鏡190面、文和元年の燈籠掉をはじめ、掛軸・文書・刀剣など羽黒山に伝わる多数の宝物が展示されている。一方羽黒山には国宝五重塔・特別天然記念物の杉並木・芭蕉の史跡「南谷」をはじめ多くの文化財が点在し、全山これ歴史博物館と呼ぶにふさわしい程である。年間百万人



の参詣者を迎えて山の姿はまさに壮観である。入館料大100・高大生80・子供60円、団体割引有
館長 大川武雄氏 (担当 村川)

山形県の水生半翅類

白 畑 孝 太 郎

6月の声をきくと水辺がこいしくなってくる。昔は水面を眺めていると、おびたしい水生昆虫類が見られたものであるが、自然開発の影響をもっともうけ易いこの仲間の繁栄は、すでに過去のものとなっている。

一口に水生昆虫といっても、種々の系統の生態的な集合体であって自然群ではない。昆虫類を約27ほどに大別するが、その一つに半翅目という大きな群があり、この中の水生性のものを水生半翅類と呼んでいるのである。半翅類の呼称は何んのことか見当がつかねる名であるが、セミ、ウンカ、アブラムシ、カメムシなどの総称である。水生半翅類は生態的にも面白く、中には日本産昆虫類のうちでも指折りの大形種を含み、水生甲虫類とともに、水生昆虫の代表的なものになっている。

山形県下には、どんな水生半翅類がいるだろうか。以下その主なるものを順次紹介してみたい。まず私たちにいちばん目につくものはアメンボ科だろう。山形県からは、アメンボ、ヒメアメンボ、コセアカアメンボとその亜種であるエゾコセアカアメンボ、ヤスマツアメンボ、シマアメンボの5種1亜種が記録されている。これらの中でもっとも普通に見られたものはヒメアメンボで、ことに水田を好み、無農薬時代には田の面を覆うばかりに沢山見られたが、いまはすっかり少なくなり、むしろ山間の温水ダムなどでよけい見られるようになった。アメンボは、県産アメンボ類のうちではいちばん大形で、この方は元々水田には少なく、河原の湧水池などを好み、このようなところでは、驚くほどの沢山の個体が見られた。コセアカアメンボとエゾコセアカアメンボは清冷な陸水を好み、平野部では

ほとんど見られない。ヤスマツアメンボは、県下の数か所から知られているが、この方はコセアカアメンボやエゾコセアカアメンボと混生することが多い。このように、それぞれ陸水に対するおよその好みがあって、緩いすみ分けをしている。

アメンボ科に近縁なものに、イトアメンボ科があるが、県下にはイトアメンボとヒメイトアメンボが分布し、その名のように糸のように細長く、主に平地の水田や小川のふちの水草間にすんでいる。以前から数は少ないものであったが、近年イトアメンボの方はほとんど姿を見ることがなくなりました。アメンボ類の軽快な水上滑走に比べると、イトアメンボ類の方は水上を歩くといった感じで、アメンボ類のようにはとていまいかないようだ。ルーペで顔をのぞくと、タツノオトシゴに似ていて、なかなか愛嬌のある顔つきをしている。

水生昆虫の最大種はコオイムシ科のタガメで、日本の昆虫のうちでも群を抜く大形種である。大体平野部の緩い流れの小川や、水田間の小池などを好む。昔から大形なのでよく目についたが、数は少ないものであった。近年特に稀となり、貴重な存在となってしまった。この巨大な水生半翅類が、私たちの世界から消え去って行くことは淋しい限りである。写真で示す当博物館の所蔵標本は、小国町産で、本館唯一のものである。タガメは、フナなど自体より大きいものまでおそい、その生血を吸うので、水のギャングなどと悪名が高かったが、こうして消え去ろうとしている姿を見ていると、また愛惜の念に堪えない。この科にはなおコオイムシがある。おすが卵を背負うのでこの名があり、それ故によく知られている。埼玉県下のある地方では、ノンキナトウサンと呼んでいるそうだが、いい得て妙である。

次いでタイコウチ科に属するミズカマキリ、ヒメミズカマキリ、タイコウチの3種が分布する。この方は少なくなったとはいえ、健在であることは喜ばしい。背泳ぎで印象づけられるマツモムシ科も、ずい分減ってしまったが、県下にはマツモムシとキイロマツモムシの2種が見られる。後の種は純北方系の種類で、大蔵村から知られ、県下唯一の産地である。以上の他、数科が確認されている。(囑託)



タガメ

— 特別展案内 —

「夏休み学習展」



当館では、特別展として「夏休み学習展」を開催する。この特別展は第3回目になるが小・中学生の夏休みにおける自由研究の手助けを目的として開催するものである。そして、子供たちが自然及び郷土の歴史を研究することをおして郷土の自然や文化財等を愛護する態度を養うことをねらいとする。この度の特別展は、次のような要領で行われる。

- 期間 7月17日(火)～9月11日(火)
 - 場所 県立博物館 特別展示室
 - 内容
- 1 社会科(人文系)
郷土のなかで古い姿の残っているものを調べてみよう。
展示テーマ — 城下町やまがた、街角にみるむかしの姿 —

- 2 理科(自然系)
自然のしくみとその変化を調べてみよう
- (1) 身近かにみられる自然林のしくみ
 - (2) 昆虫の食草と、生物の結びつき
 - (3) 自然の破壊について

3 自由研究教室の開催

第一回 第二回

人文系	8月2日(木)	8月16日(木)
	映画教室、相談室	自由研究教室
	映画10時、13時30分より	10時より
自然系	8月3日(金)	8月17日(金)
	映画教室、相談室	自由研究教室
	映画10時、13時30分より	10時より
		(菅井)

第2回「植物に親しむ会」

—— 新しい自然観を求めて ——

光と緑、そして水の確保が深刻な社会問題になっている今日、私たちが生きていくために忘れてならない基本的なことを、自分の身体を通して、再確認することは、大切なことです。

この「植物に親しむ会」は、その基本的なものとして、私たちを取囲む環境、とりわけ「自然そのものの価値」と「自然から直接学ぶことの尊さ」を、自分の目で確かめ、自分の身体で感じとり、さらには、これからの私たちが生きていくために不可欠な「新しい自然の見方、考え方」を、学ぶために開かれたものです。

期日 6月10日(日)
場所 長井市金井神
講師 県立博物館職員、フロラ山形会員
長井市植物愛好会員

当日は、日曜日にもかかわらず、250名越す参加者があり、盛況な催しであった。それは、私たちを取囲む自然環境の悪化を、直感的に感じとっていることの現われにはかならないものであろう。



長井小学校から川向いの金井神までの4 Kmの道のりを歩きながら、自然保護の基底となる植物の自然環境への適応や環境要因との同調の事実を観察した。

どの参加者も、自然のたくみさに、今更ながら驚異と感動を覚え、自然保護の重要性を実感として把えていたようである。そして、私たちが実効的に行なえる自然保護のあり方をも、模索できた催しであった。(吉野)

—— 博物館を見学して ——

きのうは、いろいろな石や動物、クジラの化石などを見せていただいてどうもありがとうございました。わたしがはじめて見たのはいっぱいありましたが、やはり石やカエルのいろいろでした。石はホタル石、オパール、セキエイ、キン、ムラサキスイショウ、クジャク石などで、カエルはウシガエルやニホンアカガエルなどでした。わたしはウシガエルを見てびっくりしたことは、からだの大きいこと、目の大きいこと、足の太いことなどをびっくりしました。石ではホタル石、キンな

どの石は光るし、きれいだしそういうことをびっくりしました。

それにスキーやソリなどもあって「むかしのものだなあ」とわかりました。

わたしはホタル石をお金にしたらいくらぐらいになるんだろう。またウシガエルやニホンアカガエル、それにカモシカのような動物はどこからはく物館へおくりこまれるのだろうということをおもいました。それでそのことを聞けばよかったですなあとおもいました。

寒河江市立南部小学校 4年 武田あけ美

※※※ た よ り ※※※

○ 民俗資料研修会

5月27日に第七回目の研究会が開催され、多くの参加者があった。内容は次のとおり、

講演 山形県のいのししを追う 丹野正氏
—今は無きふるさとの動物と住民—

発表・四月の民俗行事をめぐる問題

・新庄市上西山の地蔵講について

以上、安彦好重氏、大友学芸員によって発表された。

○ 県機動隊研修会

5月22日、山形県機動隊約45名が博物館において研修会を開催した。この研修会は県内各地域に勤務する機動隊員が、山形県を博物館の資料をとおして理解を深め、隊員の資質向上を目的としたものである。講座、展示解説は自然、人文の吉野、板垣学芸員が行なった。

○ 高等学校社会科研究会村山支部研修会

5月24日、県高社研村山支部（支部長阿部安佐氏）の研修会が開催された。研修会には約80名の参加が見られ、講座として「県立博物館の利用について」を開き、その後館内見学に移った。学校勤務が多忙なために博物館を訪れた人が少なく、人文系の展示物については社会科教材研究としてメモする方もいた。

○ 山形市小学校教育研究会理科部会研修会

6月6日、山形市小・教・研・理科部会（会長稲村英夫氏）の研修会が開催された。52名の参加者で、特に特別展庄内海岸の自然と動物についての研修が行なわれた。

○ 特別展「庄内海岸の自然と動物」

4月10日～6月24日まで約2ヶ月半にわたって開催された。期間中は県内小学校の修学旅行シーズンにあたり、おおくの児童・生徒から見学してもらうことができた。

○ 第2回「植物に親しむ会」

6月10日(日)、場所は長井市金井神で参加者は250名以上あり盛大な催しであった。

フロア山形会員、長井市植物愛好会員のご協力に感謝します。

◇◇ 7月・8月 行事予定 ◇◇

○ 特別展 夏休み学習展

期 間 7月17日(火)～9月11日(火)

別記(5頁、特別展案内)のような相談室、自由研究教室がそれぞれ開催される。

○ 上屋地遺跡発掘調査

考古部門の調査研究は第8年次調査を迎え、8月上旬おこなわれる予定である。

なお今回で同遺跡の発掘調査は終了する。

○ 第17回古文書解読講座のご案内

県立図書館との共催で、次の要領で開催しますので、ご参加ください。

期 日 8月6日(月)から8月9日(木)まで

場 所 県立博物館講堂および学習室

講 師 山形大学名誉教授 柏倉亮吉先生
山形大学教授 工藤定雄先生

主 題 近世百姓一揆史料(柏倉先生)

—長瀬村を中心に—

○ 武将文書その2(工藤先生)

会 費 1,800円(テキスト代)

受 講 人 数 120名

申 込 方 法 7月20日までに住所氏名を記入し、
県立図書館古文書解読講座係
(山形市七日町3-1-23)

に資料代をそえて申し込むこと

山形県立博物館ニュース 第14号◎

昭和48年7月1日発行

山形市霞城町1番8号(〒990)

山形県立博物館(TEL 32-1111)